

県民会館需要調査

1 調査目的

県民会館の今後のあり方検討を進めるにあたり、仙台市が音響を重視した高機能な2000席規模の多機能ホールの整備について検討を進めていることを前提に、県民会館の潜在的・将来的な需要を見込んだホールの規模や機能などの把握と、今後の整備検討に活用するための基礎資料を得ることを目的に行ったもの。

2 主な調査内容

- 宮城県内1000席以上のホール利用状況調査
- 県民会館の利用状況調査
- 宮城県内の興行公演ジャンル分析
- ホール施設利用者等へのヒアリングやアンケートの実施

3 調査結果の概要

調査総括

現在の県民会館の高稼働状況及び仙台市内のホール不足への対応を考慮すると、県が2000席規模の施設を整備しても、施設の供給過剰となることは想定されにくい。

(1) 県民会館の利用状況

- 興行公演が主体で、公演ジャンルの中心はポップス、ミュージカル等である。
- 集客数1300人以上の公演が6割を超え、稼働率は8～9割と高い水準である。
- 県内の1500席規模以上のホールの稼働率は、利用予約が取りにくい70%を超える。

(2) 県内の興行公演ジャンル分析

- 国内興行における音楽とステージ（ミュージカルや演劇など）の公演比率47：53に対し、県内は80：20とステージ公演の割合が極端に低い。
- この要因は、ステージ公演に適したホール不足の影響と考えられる。

(3) ホール施設利用者へのヒアリング状況

- 大手利用団体11団体中9団体がホール不足を訴え、新たに2000～2500席規模や、1500～2000席規模の多目的ホールを求める声がある。
- 県内外の教育機関・団体では、1800席以上を希望する意見が最も多く、3割を占めた。
- 演劇やミュージカルに適した中小規模の劇場の不足が指摘されている。

(4) 県民会館に求められる方向性

- 県内にホール施設を整備する際は、大型ミュージカルやポップスなど、ステージジャンルの大型興行への対応を考慮した大規模施設や、地元劇団・県民が利用しやすい中小規模の劇場が望まれている。
- 仙台市が検討を進めている新ホール施設との機能の棲み分けや、県民会館がこれまで担ってきた音楽及び演劇などのステージジャンルの興行公演をこれまで以上に振興する施設整備が求められている。